

審議会等の名称	平成 25 年度第 4 回阿見町立学校再編検討委員会
開催日時	平成 26 年 1 月 26 日（日） 午後 2 時 00 分から午後 5 時 29 分
開催場所	阿見町役場 3 階 第 30 1 会議室
議 題	1. 町内小学校（吉原小・本郷小）の状況報告について 2. 経過報告及び前回委員会での意見について 3. 町立学校再編の考え方について
公開・非公開の別	公開 *傍聴者 1 名
議事結果	<p>【出席者】（委員） 大久保久夫委員，田村敏博委員，小松沢唯一委員，長尾和博委員，北澤孝雄委員，塚仁美委員，後藤祐一委員，篠崎明夫委員，岡田治美委員，大越きよみ委員，高野好央委員，藤平竜也委員，菅谷道生委員，立原秀一委員，諏訪原実委員，中島雅己委員の 16 人 （町教育委員会） 竿留教育次長 学校教育課 黒井課長，小倉補佐，小林主事 指導室 根本室長 昭和(株) 山崎主任</p> <p>【次第】 1. 開会 2. 教育次長あいさつ 3. 委員長あいさつ 4. 議事 5. 閉会</p> <p>【会議内容】 1. 町内小学校（吉原小・本郷小）の状況について 〔吉原小：校長より学校要覧にて説明〕 委員 登下校についてですが，少人数で遠距離を少し寂しいところを通ることもありますが，注意している点はありますか。 校長 人数が少ないので段々には一人になってしまいます。最後の最後まで見届けるというのは難しいという点がありますが，本校では昨年の終わりから地域防犯パトロール隊ということで，地域の皆さんに下校時に見守りをいただいています。そういう組織が出来ております。ふれあい地区館の高齢者部会の皆さんにも可能であれば，畑作業や散歩に出たときに登下校に見守ってもらうことをお願いしています。職員も朝，主なところに立ったり，PTA では毎月 1 日に立哨をいただいています。下校時は低学年には職員が出来るだけついて行くということでやっております。 委員 縦割り班は何班ですか。 校長 8 班です。 委員 運動会はその班で競うのですか。</p>

校長 その班を2班ずつにしたり、4班にしたり工夫しながらやっています。8つを必要に応じて、4・4にしたり束ねています。

委員 授業で4人のグループ学習をすることがあると思うが、吉原小ではどのようにしているのですか。

校長 1年生はペア学習に力を入れて、2, 3年生からは3ないし4人のグループを作ってやっています。

委員 活発な意見交換というのは出来ますか。

校長 4人が3人になると傍聴がありませんで、当然話し合いに参加しないと行けません。

委員 先生方これだけの人数で頑張っておられるが、大規模校に比べて、色々な仕事、雑務なども一人当たりの負担が多くなりますか。

校長 公務分掌的に言えば、当然一人当たりの持ち数は多くなるということはあるのですが、人数が少ない学校ですので、そちらにかかる負担感というのは少ないので問題はないかと思えます。

委員長 校長先生が色々な工夫をして、教員に皆さんが愛情をもって接して、競争力の点でも、音楽界でも宿泊学習でも人数が少ないなりの工夫をしながら、大変な成果を上げていることは素晴らしいなと率直に感じました。この学校再編検討委員会の中で我々も先生から色々な話を伺って、少ないことによる問題が現実的にどんな風なことがあるのかということの本音の話を聞かせてもらえばというのが、この委員会の中で当初に出ていたんです。これが本音という、責任者として言いづらいところはあるかと思えますが、そのあたりが努力している話だと聞こえないので、本音で言うとあるのかどうか。また複式学級になる見込みがあるが、校長先生としてはこれまでの事例を加味しながら、こんなふうにやっていきたいというものがあればお聞かせいただければと思います。

校長 困ることがあるか・ないかと言われれば、ないと答えた方が正直なところかと思えます。ご承知の通り一人ひとりにかかる時間とか、見守りの時間というのは、どう考えても物理的にたくさんできますので、現在進めている中であるか・無いかといえば無いです。ただ、6年間同じ顔ぶれで生活しますから、アットホームということに心掛けていますが、万が一ことが起きた、いじめの問題等がありますが、逃げ場はないわけです。来年になってもクラス替えがないということで、教育を行う中で困り感はないですが、何かあった時に単学級の問題はありますが、毎年縦割り班を作りながら生活の中で、違う人との交流を図るようにしています。それから、来年度新入生が5名です、卒業生が16名ですから、11名の減で66名ということになります。人数的にはさらにきめ細かい教育が出来るといこともありますが、複式学級が2つの学年で16人というのがありますが、ご承知の通り1年生が入ると8人ということになりますので来年度は出来ませんが、再来年2年生3年生で15名になりますので、現時点では複式学級になるであろうということになります。複式学級になったら今の教育が出来るか、出来な

いかと言われればできると答えます。子どもたち一人ひとりにかかる時間は十分にありますので、ただし、2つの学年が合さっているのです、いつも教員が直接指導をできるわけではありません。2年生の指導をしているときは、3年生の授業ではなくなりますが、同じ時間の中でやっていくわけですから、最初に学習のルールを教えていけば、自分たちで授業を進めて、課題を解決していく力を身につければ、逆にそこに知性も生まれてくるのではないかと思います。場合によっては、デメリットだと思うことが、別の意味でのチャンスになると思いつつ、その当日を迎えても進めていけるとそう思っています。

委員長 力強いお話をありがとうございました。素晴らしい教育をしているところ、嫌な質問ですが。村木校長が素晴らしい新しい方針を出したのか、あるいは吉原小の1学級という特性を踏まえて、今までの先生方もそういったことで、伝統的な精神が受け継がれているのかどうかお聞かせください。

校長 授業は当然そのまま引き継いでいるところもあります。その中でさらに一丸となっていきたいと思います、士気を鼓舞していたり、あるいは具体的な計画を実践する中で自分の考えを織り交ぜながらやっています。先ほど申した通り、君原小との持久走大会は2000年からやっておりますし、よいものは引き続きやっておりますし、花壇も昨年のもので、さらにご協力をいただいて手を加えたり、改良しながら、さらに上を目指してやっております。生かせるところを生かしながらやっています。

委員 4月の新入生の保護者は27年以降複式学級になる事を知っていますか。

校長 存じていると思います。なるということではなく、可能性があるということ。

委員 それについての意見等がありますか。

校長 具体的に聞いているわけではないので把握はしていません。ただ、新入生の健康診断のときに保護者の方とお話をする機会がありました。今5人ですが、もう少し増えると良いですねという話は伺っております。

委員 貴重なお話ありがとうございました。

〔本郷小：栗栖校長より学校要覧にて説明〕

委員長 児童数の増加で教室の不足する問題についてお話いただきました。皆さん方ご質問がありましたらお願いします

委員 児童数、先生も多くて大変だと思います。変わらないのがグラウンドとか教室ということで、具体的に運動会はどのようにやられているのか。子どもたちや保護者の出番などは、他の学校と比べてどうなのかを教えてください。

校長 このところ児童数が増加傾向ではありますが、人数が増えたことでメニューが減っているということはありません。ただ今後これ以上増加しますと、何らかの制約が出てくる可能性はあります。現在は600人台で推移していますが、これ以上になると場所も含めて考えていけないと思います。

委員 保護者はマイカーで集まるとは思いますが、駐車場の確保とか近隣に及ぼす影

響とかはどうですか。

校長 できるだけ徒歩や自転車を利用することを呼び掛けていますが、それ以外に学校周辺で家の建っていない空地进行して止めていただいています。授業参観日のときなど、少しの時間ということで車を止めてしまって、工場の敷地にトラックが入れずにパトカーの出動があったということもありました。今年の運動会では、保護者による誘導から、PTAさんの会費でガードマンを雇って交通整理にあたったということもあります。

委員 初めて、この数字 50 人増ということですが、雪印メグミルクの関係で幼稚園から中学校までで 73 人が転入してきて、そのうち 35、6 人が小学校に入ると聞いておりますが、それは入っていますか。

校長 入っておりません。

委員 事務局には、とにかく急いでそういう数字を出すようにと言っています。それを入れると、今年教室が足りないんじゃないかと、職員室を廊下に出さないといけないんじゃないかという、切迫感が出てくるんじゃないかと思いますが、いかがですか。

校長 新 4 年生が何人来るかで、クラス数の増ということがありますので、そこが心配しているところです。他の学年は 10 人くらい来ないと増えませんが、あと 3 クラスで残っているのは新 5 年生ですので、そこだけが心配です。

委員 メグミルクだけでなく、それに随伴してくる子会社が 3、4 社あると思います。そこでも子どもが来るとしますので、校長先生忙しくて大変だと思いますが、教育委員会と綿密な打ち合わせをしていただいて、うまく対応してもらえればと思います。

委員 朝日中も学級編成の検討をしているところで、1、2 年生で学級増の可能性がありますので、後で詳しく情報提供をお願いします。

委員長 25 年度には 3 学級が増加になって、特別教室が普通教室に使われているわけですが、児童の安全、健康管理の面で特に心がけている点、心配な点がありましたらお願いします。

校長 子ども達が休み時間に遊んだ後に保健室がごった返すんですね。これは 4 月当初に見てびっくりしたんですが、子ども達も狭いところで遊ぶことに慣れてきたのか、けがが少なくなったんですが、保健の中心が養護教諭になるんですが、一人なんです。文科省の方で、850 人の規模にならないと 2 人にならないです。養護教諭は保健だけでなく、不登校とかなかなか教室に行けない子ども達の受け皿にもなっていますので、養護教諭の仕事が増えてきています。そういった時に養護教諭が、子ども達一人ひとりの様子が分かって、対応するということになる、600 人位が限界かなと、出来れば 400 人位であれば、一人ひとりの顔も分かっていいのかなと思います。それを超えてくると、かなり大変なところもあると思います。そういった意味で負荷が大きくなっているなと思います。安全面という点では、職員も多いのでそれだけ目もありますので、休み時間は定期的な安全

点検とか、多くの目でチェックできるということはありません。登下校は長い距離ですので心配な面がありますが、地域の方、育成会の方の協力で安全を確保しているところです。牛久警察署などとも連携して点検などもして、子ども自身も安全確保をすることの力をつけていく努力もしています。

委員長 ありがとうございます。お二人の校長先生から実態の報告をいただきました。また皆さんからありました時は、またご相談をさせていただければありがたいと思います。本日はありがとうございました。

2. 経過報告及び前回委員会での意見について

〔事務局より資料に基づき説明〕

委員長 前回の確認ですが、3月に答申をするという書き方になっていましたが、ただいまの説明では、3月末日に基本計画の報告をするということで、答申は26年度末に行うということにします。今年度は基本計画を皆さんとまとめて報告するということになります。そのところをお互い認識して進めていきたいと思えます。

事務局 3月2日から16日の間で住民への説明会を考えております。内容については適正規模・適正配置の検討から、再編のパターンはこのようなものが考えられるということを説明したいと考えております。10月の意見交換会では、事務局で日程、場所、時間を指定しての開催でしたが、地域の実情などもあり、なかなかお集まりいただけなくてということと、特に保護者の方が少なかったということがありましたので、できるだけ参加いただけるような形で開催できればと考えております。よろしければ、PTA会長さん方に委員になっていただいておりますので、この期間で集まれる場所や日にちを決めていただけるとありがたいです。

委員 前回の方法だと、舟島小では実質1人でしたし、阿見第一小でもゼロだったということがありますので、こんな状態で全小学校やって意味があるのかなと思いました。私の立場としては、統合の対象となっている小規模校の意見を聞きたいと思えます。それだけ関心ないんですよ。吉原小とか3校は多かったですけどね。

委員 もう少しアナウンスしてもらいたいですね。舟島小も少なかったんですけど、知らない人も結構いたんですよ。もう少し回数とかを増やすとかしてもらえるといいと思えます。PTAでも今回は声掛けをしたいと思えますが、やはりアナウンスが足りなかったなと思えます。

事務局 回覧等の回数を増やすことはできます。

委員長 本日と次回の第5回委員会で皆さんの意見を要約した、再編パターンを正式に説明するととらえてよろしいですか。前は具体的な案のない中で、まず意見を聞くということでの意見交換会でしたが、今回は案をもって説明するということですね。

委員 説明会のスケジュールは、PTAのほうでまとめれば、その日程で開催すると

いうことでよいですね。

事務局 日にちについては、学校間で重複することもあると思いますので、2、3日出していただけるとありがたいです。

委員 いつまでに決めればいいですか。それから場所の予約等はどちらが。

事務局 公民館等であれば事務局で予約しますし、学校の体育館ということでも結構です。

委員 説明だけということであれば、各学校でやるのではなく、大きな場所1ヶ所に全部集めてやるという方法もありますね。

委員 まとめるほうも大変ですよ。各会場で色々な意見が出ますからね。事務局としては、その地区ごとの色々な意見を聞きたいというのが、事務局でもあるんじゃないですか。

委員 PTA 総会とかに併せてやるとなると、同じ時期になってしまうのではないかと。

委員 総会は、だいたい4月の終わりに一斉にやります。

事務局 全体をまとめて1回やって、その後に小学校ごとにやるということもできると思います。8つの小学校で公平にということがありますので、どこかの小学校を対象から外すというのは考えていないです。

委員 地区で希望があれば、それに合わせて開催するということですね。

委員長 8つの小学校共通で開催してはという意見がありましたが、会場的にはどうですか。

委員 阿見小とか阿見第一小とかは、声をかけても集まらないと思います。

事務局 小学校のPTA会長に声をかけてもらえば、集まるかなと思っているんですが。ただ、全体でやると色々な意見が出てまとまりづらいと、いうのもあるのかなと思っています

委員 前回の時のように1日だけだと、時間が取れないというケースもあると思うんです。全体で1回やって、その後に個別で当該の学校でやると、2回準備されるといいかなと思います。どちらかに絶対に参加できるように。8回実施するのは大変なので、大きいホールを借りて、その後は個別にして回数を減らすようにしてはどうですか。

事務局 今後の再編パターンの検討で、変更のない学校については全体で説明をして、その他の小規模の例えば吉原小とかは個別で開催するということですね。

委員長 皆さんに、再編パターンについての話を聞く前に、先行してしまったんですが、その辺の趣旨を踏まえて開いてはどうかという提案です。皆さん、そうでなくとも開いたほうが良いという考え方ですか。

委員 パターンを示せるのであれば、説明するべきだと思います。

委員長 各小学校単位で、集まる・集まらないは別として1回開催。

委員 阿見小で、1回声をかけてみて、どうしても集まらないという状況であれば、それは仕方がないと思います。

委員 再編パターンというものが前回出ましたが、これが中心になるんですか。そ

れとも何パターンか増やすということですか。

委員 5つのパターンであればすべての学校に説明しないと揉めますよね。

事務局 再編パターンについては、意見交換会での意見も踏まえて、5+アルファのパターンを出したわけですが、その前段に適正規模・適正配置について検討したうえで、絞っていくような議論をしていただければと考えています。

委員長 そうすると、今回と第5回検討委員会のなかで、事務局から示されているいくつかのパターンをもう少し絞って、少なくしてほしいということですね。その絞った内容で住民説明会を行いたいと。ただ、PTA会長さん方にしてみれば、早めに意見を聞いておかないといけないということもあるので、今2つの案があります。全部の小学校を対象にするのか、そうでないところは合同でやるのかということですが、全部の学校を対象にということをお頭において、児童へのアンケート調査もありますので、そこを踏まえて説明会をどうするかを検討したうえで、話を戻すことにしましょう。それでは、児童へのアンケート調査について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局より資料に基づき説明〕

委員 質問7で通学時間を聞いているが、登校班がなくてマイカーの人もいますので、それもプラスしてもらえればと思います。

事務局 説明の仕方が悪かったと思いますが、子どもに聞くのは1番から8番までで、質問6で「何で通学しているか」というのがありますので、今の例だとその他で自家用車ということになります。

委員 このアンケートはどのように活用されるつもりですか。子どもが言ったから任せますでは、委員会としてはどうかと思います。

事務局 アンケートについては、意見交換会の中で何人かの方から、子どもにも聞いたかどうかという意見がありました。ほかの市町村でもあまり事例もなく、実施しているところでも、何か結論として導き出されているわけではないようですが、適正規模・配置の資料となるような設問ということで、保護者にも「何クラスがいいか」という同じような質問もしております。保護者は「3~3クラス」がいいという意見が多かったわけですが、保護者アンケートとの比較ができるような設問としています。統合後に統合してどうだったかというアンケートはあるんですが、その前段でクラス数を聞くというのはあまり例がありません。

委員 小学校5,6年生にこれだけのアンケートに答える判断能力があるんですか。

委員 このアンケートを見て、アンケートをするからには体裁を整えないといけないという、事務局の苦勞が良く見えるアンケートだと感じました。学校統廃合を考えるにあたって、必要になるのは学校規模です。それから通学保障、そして、地域文化の拠点、灯がなくなるわけです学校がなくなると。その辺がポイントになると思いますが、それは子どもには難しいと思います。ただ、「2クラスだったらいいなあ」、「もっと友達がいたらいいなあ」というのが、5,6年生のレベルか

と思います。

委員 議員などから色々突っ込まれて、やらなくてはいけないということも分かるが、果たしてそこまで答えてくれるかなと思う。答えたとしてどのようなデータとして反映させるのかと、そういう問題を考えないと下手にまとめて、後で消化できないという状況になっても仕方がないのではないかな。

事務局 10月に意見交換会を8ヶ所で行いました。地域の住民の方から、「100年を超す学校の歴史と伝統ということも大切だが、一番重要なのは子どものことなので、子どもの意見を聞いてはどうか」という意見がありました。1,2年生は無理だと思いますので、5,6年生の子どもさんがどのように思っているのか、「もっとクラスが多いほうがいい」とか「友達が多いほうがいい」などを聞いて、それが保護者アンケートで答えたものと、突合させて判断をしていくということで、是非実施したいと考えています。議員さんからも、子どもの意見はどうなんだということもありますので、学校に行くのは大人ではなく子どもさんですので、是非実施したいと考えております。

委員 当然、子どもさんの意見を聞いてほしいという、意見が上がれば聞かざるを得ないんですが、小学6年生もいいかもしれませんが、実際に中学に上がって、過去に小学校でどうだったかということを知るのも手かもしれません。自分は小規模校を卒業したんだけど、満足しているとか、実は違う学校に行ってもよかったなと今思っているとかという意見を吸収したらどうでしょうか。

委員 むしろ中学生に聞いたほうがいいのかも说不定ですね。

委員 中学生は色々経験していますからね。

事務局 アンケートはこの内容で、5,6年生はやめて中学1年生まで拡大してということですか。

委員 そこまで言うのなら、小学6年生と中学1年生の両方やったらいいのではないですか。

委員 小学生に聞いても、たぶん現状で満足して今が良いと言うと思います。むしろ経験をつんだ中学生のほうがいいのかと思います。

委員 中学生にどこの小学校を卒業したか書いてもらわないと。そのほうが面白いかな。

委員長 中学生にアンケートを取るというのは先生どうですか。

委員 面白いと思います。自分の経験から客観的に答えると思います。小さい学校を出ただけで、こういう理由でよかったとか、中学校に来てどうだったとか。

委員長 自分を振り返ってみることができるんですね。例えば、君原小の児童が竹来中に来たら大変なクラス数ですが、「あれでよかった」と言うのか、「もう少し多ければよかった」と言うのか。このような意見が委員から多かったんですが、事務局としてどうですか。

事務局 小中の両方をやると、小学校の分析、中学校の分析をしないといけないので、中学校だけというほうが分析しやすいということはあると思います。

委員長 これまでの経験から先生方いかがですか。

委員 話が少しずれてしまうんですが、今までの経験から先ほど吉原小の校長からは、すばらしい学校経営で課題はなかったという話でしたが、私が勤務した学校は課題があったんです。一番の課題は何かというと、人間関係の固定化なんです。幼稚園・保育所から同じグループで、ずっと小学校6年間も一緒。子どもって変わりますよね、強い子ども、弱い子ども。もう自分は変わっているんだけど、その中でもう位置付けが決まっていますね。それが、昔は小さくてもメリットとか沢山あって、私の頃は舟島・君原優秀だったんです。今は、小さい学校では、私の経験からは、弊害のあるところ多くあります。私、すごい学校行ったんです。5年生だったんですが、5、6とその後も1年校長やったんです。2年間見ている、中では変わらないんですよ。変わりたい子は何を待ってたかという、「早く中学校行きたい」と。中学校に行ったらこの集団からばらける。その送った中学校行って2年見ていたんですが。6年生の時にそういう風に思っていた、子どもは、もう全く、そのグループとかけ離れましたね。別の部活動に入って、一切関わらない。変わらなかったのはたった2人ですね。いわゆる問題起こしていた2人は変わらなかった。それ以外の子は皆変わりました。それを待っていた。それは小規模校の、私が経験したことです。全てではないです。だから私は中学生に聞くっていうのは、いいのではないかと、私は感じました。

委員 今の小学生の現状っていうのも、ある程度掴んでおいたらいいんじゃないですか。集計するのは大変なんだろうけども。小学生も例えば6年生くらいに限定するとか。それと併せて中学生もやる。小学生の中でもそういうこと感じている子が、今先生がおっしゃったようなことで、いる可能性ありますよね。

委員長 非常に貴重な体験談のお話が聞けて、うれしく思います。それでは、他の委員さん。そういう意味で6年生と中学2年ということによろしいですか。

委員 もう1年生だって1年間経っているんだから、それでいいと思います。

委員長 小学校の6年生と、中学校1年生に、このアンケートを取ると。

委員 面白い数字が出てくるという可能性はあるよね。

委員長 そうしたら、事務局の方で中学生に対しましては、やはり小学校の時を振り返って今の立場でどう思うかを、質問を変えてアンケートにご協力頂くということですね。

委員 中学生の場合は、どこの小学校出身かだけは明記しないとね。

事務局 よそから転入した子も「どこの小学校から来た」とかですね。

委員長 そのようなことで、アンケートを修正して実施をします。

委員 設問なんですけど、例えば3-1。いきなりこれ、「クラス数はいくつがいいと思いますか」という質問になってますので、例えば現在のクラス数に「満足しますか・満足してませんか」という風で、満足してない場合は3-1の「どんなクラス配置だったらいいと思いますか」とかいう質問にした方がいいのではないかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

事務局 質問2の方で、クラス数を聞いて。

委員 希望が入ってないでしょう。設問3でその希望。現状で満足しているか、してないか。それで満足してなかった場合は、どんなクラス配置だったらいいのか、と。

委員 それに関しては、「あなたのクラスがいくつですか」の回答が1で、例えば3-1の質問で1と答えれば、当然1クラス希望で、満足してるんじゃないかという気がするんですけども。1を選んだ人が今度は「2~3クラスあった方がいい」となれば、自然と満足してない、ということになるのではないかなと思います。

委員長 設問入れてみてはどうですか。1クラスで、それに満足してない場合には、いくつがいいですかと。そしたら具体的になるかもしれないね。

事務局 もっと少なくていいとか、満足してるか、してないかを聞きなさいってことです。

委員 そうそう。いきなり説明入ってるから。

事務局 3-1の答えが「1クラス」「2クラス」になっているが。

委員 その前の前段として、それは残して。3-1は満足してない人に対しての質問だと思ってるから。

委員 ただ、クラスの具体的な数じゃなくて、質問5のような、ちょうどいいっていうのか、少なくていいか多い方がいいとか、その程度でいいかもしれないですね。クラス数の具体的な数字を聞いても、あまり意味がないかもしれないですね。

委員 僅か10人しかいない1クラスの学校で、そこで頑張ってる生徒は、2クラス3クラスと言っても、いまいちぴんとこないんじゃないかと。中学校行って、その子たちが実体験して、初めて絵が描けるかもしれないね。だから、小学生に出す質問と中学生に出す質問は、ちょっとアンケートの内容変えたらどうか。それがどこの役に立つのかというのは、事務局が考えなければならぬけど。

委員 中学生であれば、具体的に変わっているわけなので、何クラスとかイメージできるかもしれないけど、小学生じゃ分からないんじゃないかなと。ちょうどいいか、多い方がいいか、もうその程度かもしれないですね。

事務局 小学生の3-1は、1クラス2クラス3クラスではなく、質問5の答えのように「ちょうどいい」「クラスが少ないと思う」「クラスが多いと思う」のような答えにするとということで、中学生は現行どおりでどうでしょうか。

委員 とにかく何の役に立ってるかっていうことだよ。

委員 アンケート、前回もやって、こういうことに役立つのであれば、小学生の方には、もう少しストレートに聞いてもいいのかなと、個人的に思うんですよ。例えば、あなたは現状、今もし小学校が合併するとか、新しい学校に移る場合どう思いますかとか。「嫌だ」と「かまわない」とか、そういうストレートな質問も必要なのかなと。何回も何クラスがいいとか、何度聞いても、多分そんなに役立つかないのかなと思います。そういうのよりは、実際に今小学生、中学生の子ども達にストレートに気持ちを聞いた方が、「他の学校行きたい」とか、「クラス数

が増えた方がいい」とか、「合併した方がいい」とか。「合併は絶対したくない」とか。そういった質問を混ぜた方が、いいのかなと思います。アンケート取って、その結果を何に役立てるか見えてこないの、アンケート出すのであれば、合併とか新しい学校とかに関しても、ストレートな質問というののもあってもいいんじゃないかなとは思いますが。

委員 中学生に関しては、さっきの話のとおり実際自分がどうだったかという話を聞けばいいと思うんですよね。ただ小学生に対しては、今もし合併するとしたら、「あなたは嫌ですか」「いいですか」とかストレートな質問というののもあっていいんじゃないかなというのがあったものですから。

委員長 色々な意見が出てきましたので、それを踏まえて、事務局でもう一度案を作ってみてください。

委員 小学生向きね。中学生は基本的に今のままでいいと思います。

委員長 先生の見解も参考にしながら、ご相談して一部修正してみてください。

事務局 先生方のご意見を伺ったうえで、実施したいと思います。

委員長 小学校6年生と中学校1年生に対して、アンケートをするということを行うということは皆さん賛成してくださいました。

3. 町立学校再編の考え方について

委員長 再編の考え方について、事務局から補足することございますか。

事務局 前回の第3回委員会の中で出した「再編パターンの考え方について」という資料で、前回委員会の際は、今日具体的な意見をお伺いすることになっておりましたので、そういう形でお伺いできればと思います。

委員長 再編パターンの考え方につきまして、委員の皆さんの方から前回も質問等がありましたが、再確認という意味で、色々疑問に感じた点や聞きたい点があるかと思っております。気軽にご質問、ご意見を出してください。

委員 吉原地区なんですけども、さっき委員からあったんですけどもストレートな質問という形で、実はPTAの皆さんの思いがどの辺にあるのか、年末にかけて、全6地区で意見を聞いてきました。質問の仕方としては、案1としては統合。5パターンありますけど、少なくとも吉原小はどの案でもなくなってしまうので、どこかに吸収されて統合されるのが案。案2としては、どの学校とも統合しないで単独を維持する。この場合複式になってしまうので、それも受け入れて、単独を維持したいというのが案。案3としては、実現性はかなり低いと思われませんが、学区割を変更して遠くから人を集める、それでも吉原小学校を存続させたいという案。この3つのパターンで、投票形式とかではなく、座談会みたいに集まって頂いて話をしました。結果としては、一番多かったのが、自分の学校をやぱりなくすのは非常に嫌だという意見でした。ただ、忍び難いんですが子ども5名になって、複式学級になってしまっただけで存続するのはやはりつらいところがあるということで、条件付きで案1の統合を泣く泣く選びますというのが7割方でした。

た。ただ、ひとつ複式というのが非常にトリガーになっていて、それが嫌だと。もし、今日ご説明したこともあるかと思うんですが、複式学級でも問題ないのであれば、多分ちょっと意見も変わってくるかもしれません。それが一つで、もう一つ要望意見として多かったのが、地域の拠点という形で小学校があるかと思うんですけれども、それがなくなると、今吉原地区は過疎化が進んでいますけど、もっと進んでしまう。例えば、若い人が結婚して、当初は阿見の中心部に住んでいて、本郷なんかに住んでいても、子どもが小学校に上がる時期になって地元に戻るという、先ほど校長がおっしゃっていたように、三世代で帰ってきて暮らしていこうという人達がほとんどいなくなっている。そもそも、阿見小学校に通うならそこにいればいいだろうという話があるので、当初学校の話と行政の話とは分けるという話があったんですけども、やっぱりそこはどうしても譲れない部分です。どうしても過疎化を防ぐ方針・方策を盛り込んでもらわないと、すぐにうんとは言えないというのが非常に多かった。具体的に言うと、メグミルクの話とかありましたが、アウトレット近辺に宅地開発してありますが、みんなそこに住まない。値段が一緒に不便なところに家建てて買うか言えば、なかなかそういう事にはならない。例えば、吉原地区の古い町営住宅とかもあるんですけど、そういうのに融資して例えば1万円で貸すとかすれば、すごく集まると思うんですけど。そういうことをしないと、このままずっと各地区が廃れていってしまうんじゃないかなと、非常に危惧しています。我々の地域では、例えば奉仕作業で川刈りなんかやってますけど、最年少50歳ですよ。上は70歳以上で、15.6人ぐらい集まってやるんですけど、もう若い世代いないんです。これでまた学校なくなってしまうと、どんどん過疎化が加速するんじゃないかと心配しています。行政として荒川本郷ばかりに人が住めばいいのか、地域を切り捨てるつもりなのかという意見が、非常に大きかったです。文句が出た部分でもあるんですけども。そういうところも考慮して頂いて、続けていきたい。ただ、今のは1月時点の話で、複式の有りようとか見たら、また考えは変わるかもしれないです。今のところはそういう意見が大勢を占めています。

委員長 再確認させてください。案1の統合について7割の方が、選んだとありましたがその条件はなんでしたか。

委員 「複式学級になってしまうなら」です。

委員長 それから案2の単独というのはどのくらいの割合ですか。

委員 「複式学級を受け入れてそのまま存続させましょう」は、各区1人、2人くらいです。ほとんどないです。

委員長 それから、学区割を変更したらいいんじゃないのという案もありましたね。

委員 吉原小地区の意見交換会の時に出てきたんですけど。他の地域から持って来ればいいのかと。その案も出したんですけど、出来れば残したいという話も少しはあるんですけど、少数といえば少数ですね。多分難しいんじゃないかと皆思

っています。例えば、うちの学区の中で6つの地区のうち、1地域だけ違う所に行けといっても、そう「うん」と言わないだろうと。反対意見もあるだろうと。通ればいいんでしょうが。それもあまり多くはなかったですね。多数の意見としては、泣く泣く、渋々、複式になるのであれば仕方がないというのがPTAの保護者の意見です。PTA以外では違う意見があるかもしれないけども、今はそういう状況です。

委員長 そのPTA、保護者は最初何名参加されましたか。

委員 全体で58名ですね。全員が出てたわけじゃないです、各地区集まって貰って、来られた方の意見を投票ではなく、座談会みたいな感じで聞きました。

事務局 今の現況、色々あります。住宅を建てなおして人を呼ぶ、条件付きということであれば、再編計画とは別枠のものと思います。当然計画ができて、その後合意形成の中でその部分もやるよという町全体のことなので、再編計画の中に住宅を入れるのは無理な部分かと思います。

委員 もし複式がだめで、統合されるならいつかは。

事務局 もし吉原小が統合されても建物は残るわけです。例えば計画で、阿見小に統合になるとした場合でも、当然強制的には吉原小を廃校にしてというのはないわけで、その前に保護者や地域の方に説明して、納得したうえで阿見小にということなので。勝手に廃校とか、強制的にはできません。ともかく地元の合意がなければ、1クラス・複式でも、それは続くと思っています。強制的には出来ないということがあります。

委員 阿見小におっしゃってますけど。

事務局 再編パターン1を例にしました。

委員長 事務局が申したいのは、この委員会の中では再編パターンというのを詰めて、その詰める案の中に、例えば吉原小が阿見小に、パターン1でいくと統合する案にはなっているけれども、それは皆さんの意見を聞いて、実際にやるにあたっては、別ですよ。統合するなら、もう一度よく皆さんの意見をよく聞いたうえで、納得のうえ来年以降の実施段階からそういうことになるんだということですね。

事務局 基本計画・実施計画2年間で計画ができますね。27年以降、実施計画の中に上限が入っていて、PTA会長がおっしゃったように複式になったらとか、そういう条件などが入ってくると思います。

委員長 それが実施計画の中で入ってくるんですね。

事務局 3パターンがあって、それが実施計画の中で、1つに絞るとは言いましたけれど、1つに絞った中で、複式とか、子どもがいなくなった場合には住民と合意形成しながら進めていきます。統廃合というのは、今から26年度に色んな意味合いで議論されてくることになるかと思っています。

委員長 そうすると、ただ今委員が申された色々な意見は、今日貴重な意見を出して頂いたのですが、説明会に出すためのパターンとしては、そういう意見は既に

あるんだけど、あらためて皆さんに提案したいということですね。例えば、吉原小が統合になるパターンについて、意見をここで出して頂きたいということですよ。

事務局 今、たたき台で5パターンが出てるわけです。更に新たなパターンが追加ということもあるかと思います。

委員 パターンとしてはあるにしても、統合するにあたっては複式がどのところがあるかって、本郷小も色々展望することがあって。こんな状態だ、と言っただけでいかないと多分判断できないと思う。皆やったことないから、どういうことになるか、分かってないですから。ただ複式は良くないと思っているのがあります。

委員長 理解しにくいとことがありますので、もう一度事務局から、今後の流れ・進め方等を説明してください。

事務局 基本計画で3月までに決めたいのは「適正規模はどのくらいか」ということです。1クラス何人で1学年何クラスくらいがいいのか、という適正規模というのがまずあります。そのためにアンケートを実施して、意見交換会をして、意見を聞きました。そして、この中で議論して頂いて「適正規模はこのくらいがいいだろう」というのが決まって、それに基づいて、次は適正配置という、その規模を達成するためにはこういう配置になりますね、という適正配置というのがあります。その適正配置のためには具体的にはどこどこが統合すれば、その適正配置に基づいた統合の形になりますねというところまでが、基本計画と考えています。例えば、吉原小の話で言いますと、26年度は、例えば阿見小に統合していく再編パターン1だとすれば、阿見小と吉原小を統合するにあたっては、通学をどうするかとか、PTAをどうするかとか、2つ併せることによって決めなければならないことが出てきます。そういったものを具体的に実施計画の中で、26年度に検討していくということになります。それは吉原と阿見だけでなく町全体としてです。そうした中で実施計画が26年度にできて、その中で吉原小と阿見小を統合するや具体的に進めるとなった場合、27年度以降に、阿見小と吉原小だけの関係者だけで統合委員会と言われますけど、そういう組織を作って、その関係者だけで具体的に話し合いをしていくというような流れになります。

委員 細かい所は詰めるしかないと思いますけど、今年度末までにどれをやるかは決めなければならないですよ。統合するか存続させるのか。そこが一番もめるところですよ。

事務局 そこまでは話をしなくて、その前段としてですね。

委員 選挙で選ばれたわけじゃないんですから。

委員長 皆さんどうですか、理解できましたか。

委員 先程、吉原小の話がありましたけど、実は君原小学校区でも同じように集まりをやりまして、25名ほど集まりました。内容的にはPTAと、それから区長会。それから学校後援会とあって君原小学校だけにあるようで、55年の歴史があっ

て、現在は1軒あたり1,000円協力して、学校用品の購入などを行っています。君原だけのようですけどね。その話し合いの中では、今0歳からの現在の君原地区の人数は、0歳の子が1年生になっても現在の児童数77人と変わらない、微減。従いまして、再編につきましては「反対」をしましょうということで、現在請願書も考えています。そういう実態もありますので、再編パターンを出されて実際、何年ぐらいからやるのか分からないんですよ。現実的にですね。だからその辺の見通しをできれば教えて頂きたい。例えばパターンが決まったあと、それは平成何年からどういう形で進めるのか、というところですね。その辺が全然見えていないので、ただこういうものを外へ出してしまうと、これが一人歩きするんですよ。これを見ると「君原はもうなくなってしまう」という先入観で皆話をしてしまっていますよ。だから、できればその辺の具体的な話を聞きたいと思います。

事務局 これは今からなんですけど、君原小学校はそういう思いがずっとあるもので、現状で地域の合意を得られないと統合にはならないと思います。

委員 これを現実的に数字を外に出したら、統合になるでしょう。

事務局 今は適正規模というのを検討して、その適正規模に合ったパターンを、皆さんに検討していただいています。ですから、今すぐに君原小学校が統合になるというの難しいと思います。

委員 適正配置を検討はするんだけど、例えば、実際に動くのは君原小とか吉原小の方々に、合意が形成されなければ、ただ廃案になるということでしょう。

事務局 廃案といいますか、そこまで動けないです。住民説明会で「うちは1つでいいんだよ」ということであれば、ずっと君原小は1クラスで存続ということになりますけど。

委員 絶対的な権力はないわけですね。

事務局 ないです。

委員 ただ、近くの宍塚小学校なんか、あんな形で廃校になるって新聞なんかに出ていますから、そうは言われても急なことですよという話です。

事務局 宍塚小は、保護者は学校がなり立たないから賛成していたようですけど、地域の方とかが反対して、議会で1票差で議決されなかったと聞いています。君原は、現状では統合にならないで残ると思います。君原区の区長会の連名で反対が続けば、ずっと君原小はそのままです。保護者が何と言おうと反対にあえば、そのままずっと動かさないです。例えば、児童が1人しかいなくなってどうしようもないといっても、すぐに統合ともいきませんで、前もって、さらに小規模化が進んだ時にどうするかを検討しておく必要があります。

委員 さっき議決されるって話がありました。

事務局 例えば、最終的に吉原小が複式になって、どこかと統合するとなったら、吉原小学校廃校の手続きをする必要があります。それは議会での議決ということになります。

委員 それまでに合意形成をとってね。

事務局 子ども達に十分な教育ができないから、統合したいという地元の合意形成がなされた場合です。

委員長 あくまでも基本計画だけれども、提案を受けた住民の方たちは、今のよう
なことを十分理解していないので、この案がでると廃校だと思ってしまう。説明
会で、「実施するかしないかは別」という事務局が考えているものが、住民の中
になかなか伝わらないんですね。

事務局 伝わってないですね。

委員 学校の名前がなくなってしまうことだから、基本計画とか言っても住民はわ
からないですよ

事務局 あくまで「適正規模」はこうですということを出しているわけです。

委員 基本計画案が出る根本的な背景、理由それは何か。そこで立ち返ったことを
皆さん説明された方がいいと思うんですよ。このままいくと、君原さんも吉原さ
んも複式学級になっていく可能性が大だよということ。複式学級になるとこうな
ってくるよと。そうすると子どもが減ってしまうよと。

委員 その辺でプロセスを踏んだのであれば、将来はこういう苦難の道を我々は歩
まなければいけないんだと。または、こういう風にすれば解決するんだと。
そういうプロセスを踏んだうえで、場合によっては君原も吉原もなくなってしまう
可能性があるわけです。

事務局 そもそも話に戻りますと、阿見町の子ども数の数は減ってきておりまし
て、それぞれの学校の、人数が減ってきています。今までも君原も吉原も単学級
だったんです。単学級が全然悪いということではないんですが、子どもはだんだ
んに減ってきてしまって、10人割るような状況が見えてきました。複式になる可
能性が出てきた。阿見町でもついにその段階になってきたということです。県北
の方はもうその段階になっているので、統廃合を進めています。そういう時に阿
見町の学校の在り方、基本計画は、何クラスくらいの学校を作ればいいのかなど、
それがそもそもなんです。そのために国や県の基準では、統合するのであれば単
学級ではなくて、2クラス以上ある学校にしましょうと。それが国や県の基準で、
基本のところになると思います。それでは、いつ、どのようにやるのかとなった
時に、どんな形にするかというのが再編パターンです。次の段階の実施計画の段
階になった時に、阿見町の将来像は各学校2クラスくらいになるように、とい
うところを目標にと思っています。これから長戸小に視察に行きますが、キーは複
式学級だと思っています。計画を立てました。地元とどうですかねと意見調整や
って、その辺の話は今度報告しようと思うんですが、パターンを考えて、その枠
組みで次のステップはやろうということ考えております。

委員 あくまでも我々は案を作成して提案するだけ、やるのは当事者で、動かさな
ければ動けないということで、私も初めて今日知ったんですが。

委員長 説明会を設けて実際に合併の絵を示され、皆さんが意見をきいたら実施論
に入ってくるのではないかと、というイメージだと思う。おそらく、事務局が考え

ている2段構えというところが理解されていない。前回の意見交換会が先走ったのかもしれない。

事務局 青写真がなかったという点で、そこは少し失敗したかなと思います。ちょっと無理な意見交換会だったのかなと、反省はしておりますけど、そのあたりを踏まえて再度説明したいと考えております。

委員長 君原地区の行政区の動きからすると、統合案が既に皆さんの所に行きわたり、統合ありきのような誤解を与え、請願しようということになったのではないかと思います。

事務局 肝心なところが説明不足だったと思います。

委員長 皆さんの合意がなければ統合できないというのをもっと前面に出してやっていく必要がありますね。

委員 小学校がなくならないという前提であれば、君原にしても吉原にしても、なくしたくないという話があって、なくなりませんと言ってしまうと、説明会やアンケートの意味もなくなりますよね。

事務局 最終的には教育委員会が決定することになりますが、実施計画に基づいて、例えば複式学級になるとか、子どもが少なくなって学校が成り立たなくなった時に、地域の方と合意形成を図っていくということです。

委員 君原小も吉原小も当然長い歴史があり、なくしたくないという声はあります。どっちも立場もあるわけですから、ただこの先も君原小はなくなりませんよという話をしてしまうと、今議論しているのはどうなってしまうのか、意味がなくなってしまうのではないかと思います。

事務局 今後、請願とか反対とか署名などが将来的に出てきたら、住民主体なので、統合は出来ないという話をさせてもらいました。

委員 そこは丁寧に説明しないといけないと思います。

委員 要は転ばぬ先の杖で、将来の青写真を作っておくということで、万が一統合になったときは、この青写真に沿って動かざるをえないということですね。もしなかったら、その場になった時に手も足もでない、だから今から基本計画・実施計画を作っておいて、でも本当に実行するときは、地元の合意形成がなければ動けませんということを言いたいわけですね。

委員 逆に言うと当事者から本当は合併したいんだけど、どうですかというわけにはいかないの、我々で先に案を作っておくだけということですね。それを受け入れるかどうかは本人たちが決定していくと、そういうスタンスなんですね。

委員 君原小や吉原小は、いずれはこういう状態になってきて、国県の基準などで、30人とか40人とか、そういうような条件付けが出てくると、県からの予算付けもあるから、学校が運営できなくなってしまう。町だけでやれるわけではないでしょう。したがって、学校を残すといっても先生は減ってしまう。そういうケースもなきにしもあらずと。そういった場合のために青写真を作っておく。そしたら何も騒がないですよ。吉原だってすぐに廃校にはならないわけですよ。でも複

式になる可能性はある。「複式は嫌だ」、「うちの子は大きい学校へ入れたい」、「そこで切磋琢磨させたい」という人も出てくる可能性がある。両方とも選択肢あるんだから、青写真を作るんだと。いざという時のための。可能性があるから、案を出そうと。それがこの委員会じゃないですか。

事務局 その通りです。

委員 私達はそういうイメージでは出て来てないです。今おっしゃったような会議の主旨だと思わなかった。どっちかという、どこどこくっつけるという話になってましたし、周りもそんな感じで見ました。かなり強制力のあるイメージでいたわけです。そういうイメージで来てなかったです。そこが今合意形成できれば、会議の持ち方というか、我々の考えの持ち方も変わってくるというのがありますね。

委員 教育委員会で決める話が前回あった時に、ちょっと危険を感じただけでも、適正規模が何かを十分議論せずに、何か計画だけ進行してる気がします。今日、吉原の校長先生の話も聞きましたけど。私も複式のことが疑問だったんです。それは前回も話にでていました。私も調べてみましたけど、決して悪いことばかりではないですね。複式も決して悪いことばかりではないんですよ。デメリットをメリットに、吉原小でも変えていたし。先生のお話で統合に向かっていったという事例もあり、対照的な2つの例があるわけですから。こんど長戸小学校行きますけど、いずれ統合される。複式学級になることで統合になることの原因ができた。でも吉原はまだ先だが、流れとして一度は複式にならざるをえないかなとも思います。そうしたら、ああやっぱり複式は良くないんだとなるかもしれない。そういう流れがあれば、具体的にもっと前へ進めるのではないとも思います。やっぱり、この委員会で十分検討していかないといけないのかなとも思います。適正規模って何か、よくわかりません。君原も今までも適正規模だったとおっしゃってるわけですね。そこのところをどう説明していくかでしょう。

事務局 今までも単学級のところはありました。1クラスの単学級といっても、9人から40人まで幅がありますが、阿見町も複式学級ぎりぎりの数になってきました。再編を考えると、2学級にするには強引にもできないし、それではどうするか。まずは、国の基準に合わせてみると。そして、いつやるかということになりますが、強引なことではできないわけです。2学級にするにはどうするかもわからない。2クラスにするのにはこういう形があるんですと。他の事例をみましても1クラス20人とか、複式学級とか、いろんなパターンがあります。次の段階の議論にいかないで、阿見町もまずは再編するなら、国の基準に合わせて検討してはどうかと思います。

委員 国・県のパターンに乗っかろうとしてるわけでしょう。

委員 やるかどうかは別で、でもまず案を作らないと始まらないので。

委員 議論に抜けているのは、地方財政の効率化ですね。吉原と本郷のプールの費用では、児童数によって負担が全然違う。ほとんど多くの所で、この適正規模化

の対象になっているが、全て進んでいるのかというと、実際はほとんど統合して
いないんです。市町村の合併と同じだと思います、「標準としながらも、地域の
実情に併せればその限りではない」と書いてあります。横並びっていうのは簡単
なんですけど、阿見町だって美浦とも合併した方がよかったのかどうか、分かり
ませんよね。他市町村がやっているからという理由でうちも合併とかいうことにな
ると、低い基準に合わされてしまうんですよね。阿見町独自で、例えば予算を
出して、先生1人増やすということも可能だと思います。

委員 予算が捻出できれば、誰か雇ってという選択肢もあるということですか。

委員 あると思います。

委員 複式になれば、それで独自の方法でやることも可能だと思います。きっと長
戸小学校に行けばその辺の説明もあると思います。このHPの資料を見ると、2
年と3年が複式になっています。名簿があって校長、教頭、主任の下に学習充実
という人が2人付いているんです。これは市で雇っている人なのかなと思います。
2,3年の複式で片方を教えているときに、こういう人がここに入ってくると思
います。そういう教員の付け方ができないわけではないということですか。

委員 複式だと教頭先生とか校長先生が授業教えているとか聞きました。やっぱり
教員が足りないんですか。

委員 校長は教えられないんです。

事務局 学校規模が小さいと、何が弊害かということと子どもの数はいいんですけど、
先生の絶対数が足りなくなります。吉原小の要覧を見てもらうと、係長までが県
職員です。非常勤講師から下が阿見町で雇用している職員です。先生方も出張も
ありますし、どうしても休みという時もありますので、それでは足りないので、
町予算で非常勤講師を付けています。国や県が言っている18学級というのは、
人の配置の面でも一番いい形になるということをご理解いただければと思いま
す。少人数学級になると、県から町に何人という配当があって、町内に11校あ
るんですが、11人全てはいただけないので、少人数加配という教員が張り付か
ない学校があるんです。そこに、阿見町では町予算で雇用しているのが非常勤講師
です。

委員 11校で何人来るんですか。

事務局 昨年度は10人です。1つの学校に2人つける学校もあるんです。大変さに
応じて。そうすると3校付けられない学校があったので、町予算で雇用していま
す。

委員 その大変さというのは、教育委員会が見ているんですか。

事務局 そうです。来年度は県知事の方針で、6年生まで弾力化といって学級の人
数を35人にしましょうというのでもあって、もしかすると5校くらい先生を貼り
付けられなくなる可能性があります。

委員 資料を見ると、吉原小にこれだけの人数がいるが、場合によっては人数が減
ることになるのか。

事務局 吉原小はもともと少人数なので、県からの貼り付けがないので、町で非常勤講師を雇っています。

委員 非常勤講師のことを言っているわけですか。

委員 今年、吉原・君原・実穀の3校が、県からの少人数加配が張り付いていないので、町で非常勤講師を雇用して配置しています。

委員 ちなみに本郷小だと町職員はどうなっているんですか。

事務局 用務員，特別支援員，図書司書，給食配膳員，ALTの8人です。スクールカウンセラーは県です。

委員 小規模校はこれから県から人が来ないということか。

事務局 少人数指導というのは、元々40人とか35人という学級を単純に言うと20人、20人に分けて手厚く指導しましょうというもので、君原はもともと10人とか15人と少人数なので、県では加配の先生を張り付けない。でも単純に人手として必要なので、町で予算を取って貼り付けている状況です。

委員 町では、学校を潰しませんということですけど、ずっと町の経費で人を雇っていくことのなるのか。

事務局 この検討委員会の中では、国県の基準を参考にしながら、適正規模とその考え方について、考えていただきたいということです。

委員 町の方でよくまとめて議会にも説明しておいて、地域にも今回の君原みたいな動きが起こる前に、もう少し分かりやすく説明してやった方が、合意形成をするにはいいんじゃないかなと。

委員 あまりにも我々は判断基準が乏しいんですよ。説明会をやっても住民の方はもっと分からないですよ。前回も出てましたが、財政の面も提示をとというものもありましたよね。質問されたら答えるでは困るので。

委員 メリット、デメリットを全部、影響とか列挙してください。

委員 あくまでも我々は、基本的な適正な規模や配置を考えるだけでやるのは先ですから、先に賛成反対とかを取ってしまうと、どうしてもやるのかと思ってしまうので、それがいいのかもしれないですけど。

委員長 君原地区ではすでに請願を出そうとしているし、吉原地区でも具体的な話を聞いて来たわけですが、町民の皆さんに分かりやすく説明しないと、皆さん学校がなくなってしまうという先入観が広がる恐れが多分にありますよね。PTA役員の皆さん方が保護者にお話をするにしても、計画を策定するけれども、実行に移すには地元の方の合意形成が必要だということを分かるようにしてあげないといけないと思います。何かペーパーでも作ってはどうですか。

委員 この認識のずれを埋めないでやっていると、一旦感情論に走ったものはかなりの年月をかけないと、我々の認識も違うわけですから、一般の住民の方は分からないですよ。

委員 検討委員会は、私たちが認識していたように、もう結果ありきのところで検討しているんだと思っている人が大多数です。

委員 国のレベルでも諮問会議で、そういう結論ありきでやってきているわけですから。阿見町でも同じだなとそうだと思いますよ。

委員 実際そう思われることもありますよね。何を話し合っているのかと。

委員 PTAの方でも相談するとなると、検討委員会はこういうスタンスでやっているんだということを、口頭で説明するのはかなり難しいと思います。おそらく皆さんが思っている認識だけになってしまうので、簡単に分かりやすいペーパーとかあった方がいいのではないかなと思います。

委員 最後は納得性の問題です。正しい情報を提供していかないといけないと思います。財政面など出ていないし、新しい学校を建てるなら住民に税金をたくさん納めてもらえば建てられますよ。言わなくても分かるだろうではなくて、隠していると良くないですよ。かえって心証を悪くしてしまいます。

事務局 委員会のスタートは、児童数の減少であって、財政は後の問題です。ただ、県のパンフレットでは、これだけ削減できるよということは説明していますが。

委員 そのあたりも後から出したのでは隠していたといわれるんです。

事務局 事務局で出した案をたたき台にご検討をいただいて、計画づくりをしていきたいと思います。ひとつとして「青写真を作っておく」ということで。

委員 そういうのを全部まとめて説明すれば、君原の運動もなかったでしょう。

委員 逆に請願書が通ってしまったら、統合したいという場合に動けなくなってしまっていて現状維持しかなくなってしまうのではないですか。

委員 地元住民だって統合してほしいという意見だって無きにしも非ずなので、男1人に、女8人なんていう学級ができて、いつまでもそんな学校にいたくないから、他の学校に行かせてくれという場合も出てくることもあるので、請願を出して縛りを作ってしまうのも困ると思います。

委員長 皆さん理解しづらかった部分が少しはすっきりしたかと思います。そういう難しい委員会であるということが、ある意味それぞれのお立場で一步進めたかなと思います。事務局、今後の予定についてお願いします。

事務局 次回、第5回は2月16日に予定しています。阿見町としても、国県の基準を踏まえた計画を作って、第5回で見ていただくということにしたいと思います。住民説明会については、もう少し先に開催するということにしたいと思います。

委員長 住民説明会はこの日程で実施するのは難しいと思いますので、少し置いて、事務局にペーパー作ってもらって、委員会での合意がなければこの先進めないで、請願が3月議会の前という話がありますので早急にやらないといけないと思います。そうすると、2月6日の長戸小の視察研修と、2月16日の第5回検討委員会は予定通り実施するということがよろしくをお願いします。それでは大変長時間にわたり、ありがとうございました。

(午後5時29分閉会)